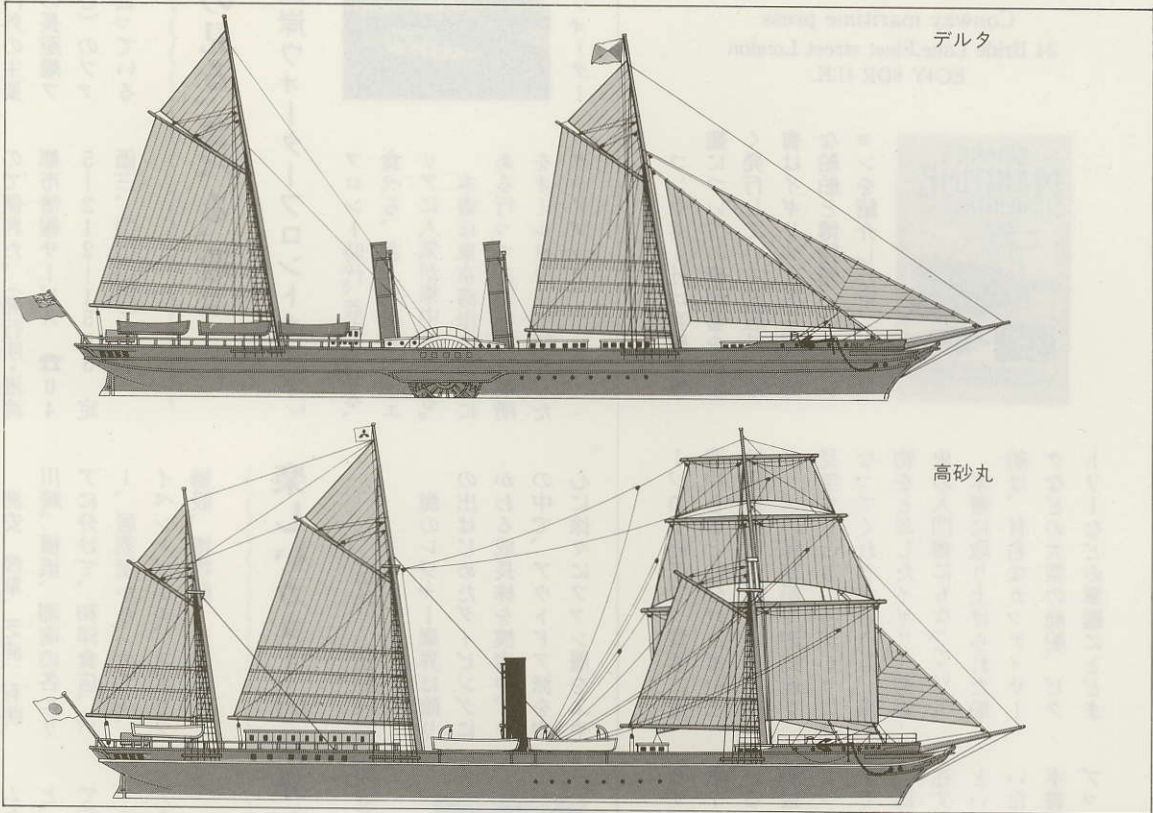


高 砂 丸

《主要目》鉄製汽船、郵船汽船三菱会社所属、1,618総トン、主機オシレーティング、速力10ノット、1859年英国テムズ・アイアン・シップビルディング社建造、前名デルタDELTA

スエズ運河の開通式に英国から公式参加



デルタ

高砂丸

イラスト・西村慶明

P & O 最後の外輪汽船

信じがたいことだが、幕末から明治にかけて、世界の船舶史の一ページを飾る有名船が何隻か、まだ東洋の未開発国だった日本の船籍にはいつている。三菱会社の「高砂丸」も、そういった一隻だ。その前身は、英国P & Oの鉄製外輪汽船「デルタ」である。

P & O、すなわちペンシユラー&オリエンタル・スチーム・ナビゲーション社（今も世界の大手船会社として健在）の創業は、十九世紀の前半にさかのぼる。P & Oは、汽船が、規則性と迅速性が要求される郵便輸送に向いていることをいち早く見抜いた船会社だった。英国海軍省から郵便補助金をもらって、次々と汽船による定期航路をのぼしていった。郵便運送契約による航路開設は、一八三七年英国くジブラルタル、一八四〇年英国くアレキサンドリア、一八四二年スエズくカルカタ、一八四五年セイロンく香港というように、ついには東洋に達した。

ちなみにP & OのP、すなわちペンシユラー（半島）は、創業時からゆかりのあるイベリア半島を指している。

「デルタ」は、右のアレキサンドリア航路の定期船として誕生し、一八五九年十月十二日に処女航海についた。船名の「デルタ」は、

ナイル川下流のデルタ地方にちなんだもの。姉妹船「マツシリア」とともに、P & O 史上最後の外輪汽船だった。

すでに、スクリュー船の時代だった。有名な「ラトラー、アレクトの綱引き」でスクリュー船の優秀性が実証されたのは一八四五年であり、その十四年も後のこの船に、外輪推進方式が採用されたのは、郵便運送契約先の海軍省の意向によるものだった。外輪方式に固執する頑固者が海軍省にいたためか、有事の際にナイル川で作戦する可能性を配慮したためか、理由は不明だ。

スエズ運河の開通式に参加

「デルタ」は、一八六九年十一月十七日に挙行されたスエズ運河の開通式に参加し、英国船としてはじめてこの運河を通過したという輝かしい船歴をもっている。

エジプト副王が主催したこの式典には、世界各国から六十八隻が招かれ、フランスのウージェニイ皇后（ナポレオン三世の皇后、運河の建設者レセップスの姪）の乗る王室ヨット「エーグル」を先頭に、ポートサイドから単縦列で運河をパレードした。「デルタ」は、マルセーユから英国代表を乗せてこれに参加し、水路半ばのティムサア湖まで航行した。

各国の船は、三日かけて紅海側のスエズま

でパレードしたのに、「デルタ」は途中で引き返している。こうした英国の冷淡な対応の背景には、フランスの運河建設に対して、いろいろと難くせをつけて妨害をしてきた事情がからんでいるのだろう。

余談だが、やはりこの式典に参加したエジプトの王室ヨット「マハルツサ」は、エジプト海軍の練習艦として、ごく最近（一九八七年）まで健在だった。この長寿船は、一九七六年にニューヨークで行われた米国建国二百周年記念の国際観艦式にも姿を見せた。

日本最初の外国航路定期船に

一八七四（明治七年）年、「デルタ」は、台湾出兵用の輸送船を求めていた日本政府に売却され、「高砂丸」と改名した。

次いで翌一八七五年、郵便汽船三菱会社に払下げとなり、同年二月三日に開設されたわが国最初の海外定期航路、横浜―上海間に就航した。週一便のサービスで、一週目「東京丸」、二週目「新潟丸」、三週目「金川丸」の順で横浜を出航。「高砂丸」は、四週目の二月二十一日に上海へ向かっている。当時この航路は、米国パシフィック・メイル社の木造外輪汽船四隻の勢力下にあったが、三菱の船は一年足らずで、これを駆逐してしまった。

二本マスト（スクーナー型）、二本煙突の外

輪汽船から、三本マスト、一本煙突のスクリュー船に改装されたのは、このころのことだ。改装地は英国らしい（山高五郎氏の『図説日の丸船隊史話』では改装地を上海としている）。この改装により、「デルタ」時代の軽快な外形は、すっかり失われた。

一八八五（明治十八）年には、三菱と共同運輸が合併し、設立された日本郵船に移籍。日清戦争では、海軍軍令部長・樺山資紀中将の座乗艦として就役したが、この時点で船齢三十五年。すでに老境にあつた。

一八九八（明治三十一年）年に、アラスカのゴールドラッシュに沸き立つ米国に売られ、「センチニアル」と改名、西海岸とアラスカを結んだ。次いで日露戦争が勃発すると、米国からウラジボストクへの密輸船として就航。宗谷海峡で日本海軍に拿捕されたが、終戦直前であつたため釈放され、米国に帰航する途中行方不明となった。

一九一三年、ロシア人グループがカラフト北方の氷海で同船の船体を発見したが、これが、かつてP & O フラッグをなびかせて灼熱のスエズ運河を通過した名船「デルタ」の、最後の消息だ。

（山田 迪生）